

実施施設への

インタビュー

就労支援では、事業利用後、受入施設へ就職したケースが数件あります。体験を通じ自信を持つことができ、「この施設で働いてみたい」と発信してくれたことをきっかけに、受入施設にて就職となったケースについて、担当者にご本人へお話を伺いました。

社会福祉法人彩明会 障害者支援施設 りんごの家（桶川市）
事務長 佐藤 達也さん

Q

印象に残っていることはありますか？

体験前と後では別人かなと思うくらい、ご本人の印象が変わりました。初めて施設へ見学に来た際は、視線は終始下を向き、あまり目線を合わせようとしてくれませんでした。また、消えそうなか細い声で、自分の意思をはっきり示さない様子で、コミュニケーションが難しそうだなと印象を持ちました。

しかし、体験中にグループホームの草むしりをお願いした際、最終的には自宅から自分の鎌を持ってきて作業を行ってくれました。ご本人の作業のおかげで見違えるようにきれいになり、本人も満面の笑みでそのことを私に報告してくれました。その笑顔は今もよく覚えています。



Q

今後の意気込みをお願いします

分野の違う生活困窮者の支援は色々難しいものでしたが、就労支援員をはじめとするその分野の専門家と協働しチームで動くことで、考え過ぎずに支援に携わることができたと感じています。対人援助に携わる者として知見が広がる経験にもなりました。また、人材確保が難しくなっている中で、「働くことが難しいけれど実は良い人」という方が地域に眠っているのであれば、就労支援を人材掘り起こしのきっかけにできると嬉しいなという思いもあります。根底にある「やっぱり人が好き」という感情を大切に、今後も取り組んでいきたいです。

Q

就労支援にあたって工夫したことを教えてください

前向きに就労体験を頑張りたいと考えてくれているので、本人の強みに着目し、少しずつ成功体験を増やしていけるよう環境作りや声かけを行い、少しずつ慣れてもらうことを意識しました。

自分で「こうしたい」といった意思表示が難しい方であったため、こちらからある程度、選択肢を示すようにしました。あとは、就労支援と言っても、人と人との関係性なので、支援する側・される側ではない関係作りを意識していました。

また、他の職員に受入れの経緯やご本人について説明を行い、困ったことがあったらフォローをお願いしていました。

就労体験を行った本人の声

市役所に相談し、「就労支援」について知りました。福祉の仕事に興味があった訳ではなかったのですが、とりあえず挑戦してみようと思いました。施設で利用者の方と触れ合うことは初めてで、大変でしたが、関わっていくにつれて「おもしろいな」とか、「きち

んと支援してあげたいな」という気持ちが出てきました。現在は生活支援(食事の介助やトイレの介助等)の業務に就いて、直接利用者の方と関わっています。体験を通じて感じた“チャレンジしてみよう”という気持ちをこれからも大事にしていこうと思います。